

中国

中国の独立ドキュメンタリー

呉文光（ウー・ウェンガン）さんがテレビ局の仕事をしながらも、個人でドキュメンタリー映画『流浪北京：最後の夢想家たち』（1990）を誕生させたのは18年前。当時中国で国家が統制するメディアとは異なる独立ドキュメンタリー映画を志し始めていたのはごく少数でした。以降、呉さんは独立記録（インディペンデント・ドキュメンタリー）映画を一貫して追求し続け、国内外のネットワークを作りながら、映像のみならず、雑誌やギャラリーの立ち上げ、舞台制作、映像ワークショップなど幅広く活躍されています。〈記録すること＝現実に向かうこと〉という衝動からカメラを持ち、自由を模索したドキュメンタリストとして、激動のこの20年の経験と活動や、中国で活躍する映画作家として標榜する〈独立〉とは、また個人の記憶をどのように記録するのか、などを第1部で呉文光さんにお話していただきます。

第2部は編集、執筆、写真、映画や舞台の脚本、写真展や映画祭、シンポジウムの企画など横断的な活動を行う仲里効さんのお話をうかがいます。コーディネーターを務めた山形国際ドキュメンタリー映画祭2003の特集上映「琉球電影伝／境界のワンダーランド」では、ドキュメンタリー、劇映画、広報映像、TV番組など76本もの沖縄を巡る映像を一挙上映。「映画は沖縄をどのように表象したのか？」を検証し、映画話法やイメージの力の深淵まで迫るプログラムとなりました。2007年に刊行された著書『オキナワ、イメージの縁（エッジ）』（未来社）では沖縄の「日本復帰」を〈再考〉〈審問〉する場を立ち上げ、この本から触発された様々な企画、論考が生み出され続けています。仲里さんからイメージの現在、イメージの現場について上映を交えてお話をうかがいたいと思います。

第3部では日本の社会状況・思想状況に鋭く切り込む企画を送り続ける『現代思想』編集長の池上善彦さんを司会に迎え、意見交換と対話をもちたいと思います。

豊かな交流の場がひらけますよう、多くの方のご参加をお待ちしております。

主催：成蹊大学アジア太平洋研究センター（CAPS）
Center for Asian and Pacific Studies, Seikei University
<http://www.seikei.ac.jp/university/caps/>
〒180-8633 東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1
Tel: 0422-37-3549 Fax: 0422-37-3866 E-mail: caps@jim.seikei.ac.jp

成蹊大学アジア太平洋研究センター（CAPS）Center for Asian and Pacific Studies, Seikei University ……アジア太平洋地域に関連する各分野の学術的・国際的共同研究の推進およびその研究成果の社会への還元ならびに国際学術交流の促進を目的とし、成蹊大学唯一の常設研究機関として1981年に創設されました。研究プロジェクトの実施、国際的学術交流、センター叢書およびジャーナルなどの出版活動、公開講演会、シンポジウム、研究会の開催、若手研究者支援など積極的な活動を行っております。

中国、沖縄 ドキュメンタリー／アートの可能性

現在世界中から注目を集める中国のインディペンデント・ドキュメンタリー映画を初期より牽引してきたドキュメンタリー作家・呉文光（ウー・ウェンガン）さん、沖縄からアートをめぐり多彩な活動をされている仲里効さんをお迎えし、いまの世界における表現の現場、源泉についてお話をうかがい、参加者のみなさんと声を届け合う対話の場を持てたらと思います。

10月31日[金]

成蹊大学（裏面に地図有り）8号館 602号室

開場 13:00

開始 13:30（第3部 17:30頃終了予定）

第1部 呉文光^{ウー・ウェンガン} 講演

第2部 仲里効 講演 ※参考上映あり

第3部 参加者との対話

司会：池上善彦（『現代思想』編集長）

第4部 交流会 10号館12階 18:00～20:30予定

アートの可能性

沖縄

SEIKEI

特別協力：浅川志保、藤岡朝子、濱治佳、シネマトリックス

10月31日 シンポジウム

【ゲスト・プロフィール】

呉文光 (ウー・ウェンガン)

1956年、中国雲南省生まれ。中国インディペンデント・ドキュメンタリーのパイオニア。高校卒業後、新疆ウイグル地区で3年間小学校教師となり、雲南の大学卒業後、昆明、北京でテレビの仕事に携わる。初監督作品『流浪北京：最後の夢想家たち』(1990)、続編の『四海我家』(1995)、『私の紅衛兵時代』(1993)を発表、山形国際ドキュメンタリー映画祭でも上映され、『私の紅衛兵時代』は新進気鋭の作家を発掘支援する「アジア千波万波」部門で小川紳介賞を受賞。その他の作品歴に、流れ者の歌舞団を描いた『江湖』(1999)、パフォーマンス・アートを記録した『出稼ぎ労働者と踊る』(2001)、『Your Name is Outlander』(2003)など。映像製作のみならず、海外の映画祭などで得た知識や情報を出版物より発信、ワークショップや上映会の組織も行っている。ダンサー・振付家の文慧氏との共同企画で1994年より舞台の制作や演技にも関わり、海外公演も多い。近年は国連プロジェクト「村民自治ビデオワークショップ」のプロデュースなど、2005年にオープンした草場地ワークステーションを拠点に、若者や農民らのビデオ制作を支援する活動に専念している。



—呉文光著「中国、ドキュメンタリー映画への渴望」『Documentary Box Vol. 1』(1991)より

仲里効 (なかざと・いさお)

1947年、沖縄南大東島生まれ。雑誌『EDGE』編集長。活字と映像(写真、映画)から沖縄の境界性、エッジとしての沖縄を試みる。著書に『オキナワ・ビート』(ボーダー・インク社)、『ラウンド・ボーダー』(APO)、『沖縄の記憶／日本の歴史』(共著、未来社)など。映像関係では、『嘉手刈林昌 唄と語り』(共同企画、高嶺剛監督)、『夢幻琉球・つるヘンリー』(共同脚本、高嶺剛監督)、映像展「丘の上のイエスタデイズ」等。2006年に『コンディションデルタ』を製作、パリでの「こんにちばパレスチナ」月間オープニングとして上映。2003年山形国際ドキュメンタリー映画祭にて「沖縄特集 琉球電影伝／境界のワンダーランド」のコーディネーターを務める。直後に行われた沖縄版山形映画祭『琉球電影烈伝』も企画運営。2007年には『オキナワ、イメージの縁(エッジ)』(未来社)、『「沖縄問題」とは何か—対論』(共著、弦書房)、2008年に『沖縄／暴力論』(共著、未来社)を出版。2007年の山形映画祭アジア千波万波で審査員を務める。2008年に脚本を執筆した島民劇「大東アンマク」が上演された。



「日本の内にあるのに内にはない沖縄という“境界”から国民・国家の物語を問い、忘却にあらう記憶を現前化し、外なるものを聞く群像の声とまばたき。そして何よりも表象されたイメージの襞によって沖縄自身が裁かれる経験でもあった、と山形と沖縄を移動した映画の旅を振り返って少なくとも、今はいうことができる。

沖縄が抱える矛盾と葛藤を隠蔽するトピカルな“癒しと観光”イメージが膨れ上がり、沖縄イメージが消費される昨今の顕著な沖縄を巡る表象に、「琉球電影列伝／境界のワンダーランド」はすこぶる異風な声を響かせ、脱構築する映画の実践であった。イメージの戦争はすでに始まっていた。終わったところから始まる映画の旅を強く予感させる試みであったといえよう。」

—仲里効著「イメージの戦争がはじまった」『Documentary Box Vol. 23』(2004)より

●司会：池上善彦 (いけがみ・よしひこ)

『現代思想』(青土社)編集長。1991年より『現代思想』編集部勤務、現在に至る。2007年に中国雲南の映画祭に参加。東京で中国のドキュメンタリストを迎えて行った「雲之東フォーラム」(2007)、北京で行った「知識としてのアジアと現実としてのアジア 沖縄会議」(2008)の企画メンバー。

呉文光監督の作品を見よう!

10月28日[関] 4号館ホール 9:30～

10月30日[関] 5号館102号室 15:30～

四海我家

四海為家

At Home in the World



1995/カラー /DVD上映/
120分(本編87分版)
監督: 呉文光 (ウー・ウェンガン)

地方から北京に上京し、国家体制の中で与えられる職業を捨て、芸術的理想を追求する若きアーティスト5人の彷徨を描いた『流浪北京：最後の夢想家たち』。その後、仲間の内4人は90年代に

中国を離れてフランス、イタリア、オーストリア、アメリカと世界へ散っていく。友人と再会するためカメラを携え監督が訪ね歩く。『流浪北京』のダイジェストとドキュメンタリー作家・佐藤真監督との貴重な対談も収録されている1994年のテレビ番組と『四海我家』を上映。

10月29日[関] 3号館102号室 15:30～

私の紅衛兵時代

我的一九六六

1966, My Time in the Red Guards



1993/カラー /VHS上映/134分
YDFF93小川紳介賞
監督: 呉文光 (ウー・ウェンガン)

文化大革命に青春時代を送り、今は学者や映画監督(『青い嵐』の田壮壮)になっている元紅衛兵たちが、詳細に20数年前のその経験を語る。官製映画とは違うインディペンデント映画ならではの淡々とした本音を映し出す。

※各上映に亀嶋庸一アジア太平洋研究センター所長によるイントロダクションあり

成蹊大学

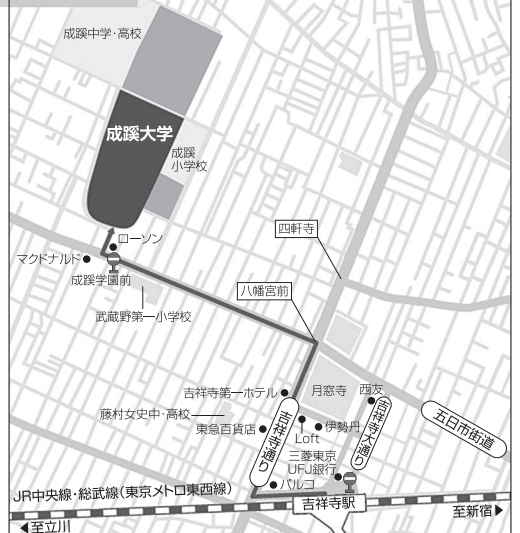
〒180-8633

東京都武蔵野市

吉祥寺北町3-3-1

<http://www.seikei.ac.jp/university>

ACCESS MAP



●映画祭のご案内

ドキュメンタリー・ドリーム・ショー——山形in東京2008

仲里効氏の著書をベースにし1972年の「日本復帰」前後に生まれた映像を取り上げる「オキナワ、イメージの縁(エッジ) 映画篇」、黎明期から国際映画祭を席巻するまでにいたった中国ドキュメンタリーを一挙上映する「中国★記録電影(ドキュメンタリー)の20年」を濃厚にクロス上映! トークやオールナイトなどイベント多数予定。

11月1日[土]→11月14日[金] ポレポレ東中野 [11月8日[土]からレイトショー]

主催・お問い合わせ: シネマトリックス Tel. 03-5362-0671 (平日10:00-18:00)

<http://www.cinematrix.jp/dds2008/>